

マスク収益行事費に

浦添の宮城幼稚園PTA 800枚製作

【浦添】宮城幼稚園（宮國義人園長）PTAが、手作り布マスクを園先で販売し、収益を子ども思い出づくりの行事費に充てる取り組みをしている。3月からPTA役員4人が中心となり、作り上げたマスクは約800枚に上り、園内外で愛用されている。（社会部・宮里美紀）



父母の手作りマスクを愛用する子どもたち―浦添市宮城・宮城幼稚園

花やアニメ柄好評 ■ 園内外で愛用

3月に、PTA役員の岸本久美子さん（37）が娘に作ったマスクが子どもや保護者に好評で、入園式のプレゼント用で作りためたのが始まり。同役員の島袋真樹さん（36）、木村千秋さん（37）、津波古芳乃会長（40）が分担して製作した。入園式は新型コロナウイルスの影響で延期されたが、新入園児に1人2枚ずつ配ることができた。

その後、根間章子副園長がマスク販売を提案。休園期間はPTA会費が徴収できないこともあり、津波古会長は「マスクの収益金で行事費を賄って、新型コロナウイルスで運動会もできない子どもたちに、記憶に残る思い出をつくってあげよう」と賛同した。

マスクは子ども用1000円、大人用3000円。玄関先に置くことで、マスクを忘れた親子が買えるようにした。柄は無地や紅型、かわいらしい花柄など豊富。最も人気な柄はアニメ「鬼滅の刃」をイメージした麻の葉模様などで、岸本さんは「1日でなくなった」と驚く。

島袋さんも「私たちのマスクを着けている見ず知らずの

小学生を見つけた」とうれしそう。津波古会長は「うちのを見たから他のマスクは選べないと思う」と自画自賛する。

年内まで販売予定で、収益は子どもたちのかき氷代クリスマスプレゼントの代に予定という。

町道開設 反対7千筆

北谷の絆保育園 交通事故懸念



【北谷】町が進める防災拠点整備事業で作られる町道によって交通量が増え、園児や地域住民らの交通事故のリスクが高まるとして、町吉原の絆保育園（玉城和歌子園長）が、町道開設に反対する署名を集めている。7月から始め、同園に通う園児の保護者や地域住民、保育関係者ら7012筆（8月28日時点）が集まっている。

つている。

防災拠点整備事業で、南側に消防署と給食センターが移転することが決まっている。町道は、消防署とセンターを経由し、県道の絆保育園前の通りを南北に開通予定。



園を運営する社会福祉温和会の阿嘉よね子理事長は、園周辺は住宅密集地幅も細く「現在は地域協力もあり、安全性を高い状態」と話し、地味以外の車の行き来が増えることで「子どもたちが巻き込まれる可能性がある」と訴えた。

町土木課は、開通時は1日当たり千台以